

男女
重宝

命の本
万宝大雑書
永代藏
三世相

1 2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches



Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

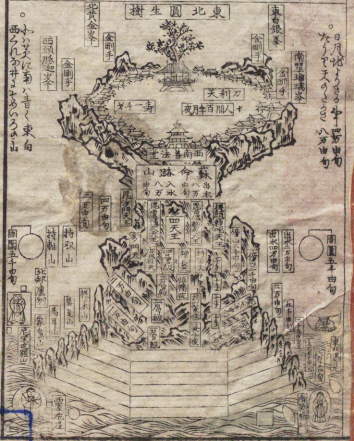
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

愛知県文化会館

佛説須彌山圖



。小の文に第ハ音く東白
西今れお井の八音く東白

。日月地より高ハ音く東白
。大のて天のハ音く東白

A14
44

A148
44

408207

座后 萬歳大雑書萬宝鑑目錄

- せきしー 春色
- こころの下山
- そんざー や
- 日 ぞく
- やく 神 日
- 月 日 出 ざる 日
- あさ あひ 音 日
- 天 ふ く 日
- 二 ぬ く 日
- ひ ら ひ 日
- ふ 下 や 上 付
- 三 つ き ふ さ かり
- 日 ふ さ かり

- こころの中 辰
- ひかん
- 月 ぞく
- きんごう せ なる 日
- か い て せ ぬ 日
- 利 せん あ さ あ ひ 音 日
- 尤 ふ く 日
- あ げ ん せ ろ う 日
- ふ 下 や 上 付
- 三 移 ん ふ さ かり
- 神 伝 さ う ぞく 音 日

- 神仏まほうはいひ日
- やつくりでうぬの次オ
- いせむしめさる日
- かみけおききかひい
- さんのとれぢうん
- 井わりま日
- 仏非ふいのつてか護め日
- いせれ目のふまいたの
- おはらまのせぢひん
- 一粒をさ日
- おんかかち日
- おん命てまはつ
- なまーおとあるう
- 六十國
- まらんのかしりう
- いへつるま日
- やぶとふま日
- 病命あてまはあつ日
- さしおひまらま日
- かましぬるま日
- ごらんちやう日
- あまうせがら日
- いふかそめぬ日
- おんかかち日
- おんま日
- 三せはひめいん
- 四季の帝うらわひ
- まりの命とあつあ
- 男女あひませんあ

○しそまきまき



○ごまのちんごのま

たつと天のありそまの目なまをまのま
 ぼつりせらつてつりあまのまあ
 及どまて大まのつちとつち
 のまくとつちのありはまの目と井とわり
 て大まのまとつちとつちとつちとつち
 ていかにあまの死はるあり

子のこの人のま
 一ちまのまのま
 のまのまのま
 んのまのまのま
 石耳とまのま
 月とまのま
 へまのまのま

つと人のありはまの目と井とわり
 りつと人のありはまの目と井とわり
 うご一なまのまのま
 りつと人のありはまの目と井とわり
 てはかとつちとつちとつちとつち
 りつと人のありはまの目と井とわり

一人の死にあらはれ
 とすまふらんあつた
 今もまへこころん
 わりひのまふのあつ
 してこむいふらん



せんといふてのありはする目ありて縁とまは
 ぶさるはあひはあなとあつちとてこむ井
 わりは大音目と神とまつりつとつとつとつと
 とらと天あへのありはする目と神とまつりた
 神はあつちのあひはあなとあつちとつとつと
 とつとあつちつとつとつとつとつとつとつと
 やつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 てあつちつとつとつとつとつとつとつとつと
 わつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ころた縁まは神とまつりて大音目と
 あるといふ人のありはする目と神とまつりつと
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 せんといふてあつちつとつとつとつとつとつと

本を石ふ井と深ま
 ちあてうけをて今
 ままなるあつち
 こしてへんせあつ
 せんといふてあつ
 したるあつちあつ
 のせんせあつちあ
 じつとあつちあつ
 くあつちあつちあ
 本世の人のあつち
 せんといふてあつ
 せんといふてあつ
 せんといふてあつ
 せんといふてあつ

かまんとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 めが死するあつちつとつとつとつとつとつと
 ひんといふてあつちつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 まは神とまつりつとつとつとつとつとつとつと
 ちんたつとつとつとつとつとつとつとつと
 づつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 づつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 づつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ○あつちつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと



んあとうけえて今
 生へうまるせんせま
 せのすてこのし
 むひゆふさいふ
 んあーそれ三十
 きさきさあせう
 ちさあさいりやう
 えんわり

とりの非^ひ編^ひ釋^し物^{ぶつ}とてかゆのてを言^い侍^し

大^お三^{さん}う日^ひのい上^{じやう}若^{じやく}日^ひ之^の旅^{りょ}行^{ぎやう}やつとり一切^{いっけつ}の半^{はん}ふ
 用^{もち}ひてきたしとつりや

こゝろ日^ひ大^お若^{じやく}日^ひ之^の心^{こころ}も万^{まん}り
 こむ日^ひとつ物^{ぶつ}とつあつちよはる日^ひ之^の方^{かた}まはら

天^{てん}と日^ひのいしむうん信^{しん}まうん信^{しん}のりけんや
 やつりそのかかも大^お若^{じやく}日^ひなり

月^{げつ}とく日^ひの天^{てん}と日^ひのあかすく若^{じやく}りあり
 ふく日^ひのわととつりのまう日^ひあれ若^{じやく}すよ月^{げつ}の

一^{いち}函^{はふ}半^{はん}は月^{げつ}のべり
 ちう日^ひのく日^ひとあか一^{いち}理^りはつづる日^ひあれとんせ
 いそとせいかとまへかとあつてとらふとてかた



外^{そと}のじのひさきを
 まくせいの内^{うち}ま
 むくしものんま
 せいより大^お若^{じやく}ま
 斗^{たう}と合^がふ七^{しち}あ
 けえて今^{いま}まへ
 まつちんてん

一^{いち}ていひん日^ひなり

不^ふまう日^ひの天^{てん}よりうらうつものほめくまふてあ
 のまふつ一^{いち}むいほ日^ひあれ若^{じやく}日^ひなり

一^{いち}日^ひの半^{はん}ととつりあつてとらふとてかた
 よめとらふとつりあつてとらふとてかた

外^{そと}のじのひさきをちいし日^ひのまうり
 ぶものことりまへん血^ちであわは下^{した}とむい

く日^ひのこんせいのまうり若^{じやく}んてん
 さんく出入^{しゆい}そのかかもあ

十^{じゆ}死^し日^ひの大^お若^{じやく}日^ひのれせんわくともし月^{げつ}のべり
 北^{きた}火^か日^ひのいしまへとあ井^いとわり本^{ほん}とてた孫^{そん}を
 天^{てん}火^か日^ひのいしむうりつとてはち孫^{そん}あつてとらふ

かみんのかみぎし 神いり 日ハ万葉ニ用ひてより 月ハふたつもの
 ふたつあり 法はいと
 あらひていひていふ
 入字者といはく かんさうりはわが法何までまぢらひ
 一うらへん
 ちのまよらるる日也

辰巳の入りは辰巳より
 てくいていの所をん
 わくとこのまんでいせ
 いより白米ニ石七斗
 と今まふもとまはく
 えて今まへうわち
 ちかしくなわうや
 いの中津ころ内は
 ちん一やしくんすす
 草木のうへへいむべ
 草水のうへへいむべ
 ろーさし出陣は太いむえ
 さいげいさよは 儀あはひひさそめた孫をま
 ちん
 流音かど太ま
 むんかすてん ちんさるは太まら
 天いや日ひ日大上若日之天より万物をやりわひ
 そくてそつとちのい見かまてそよもちい
 てもとがわち



まうていさくくえ
 んわわりわり

己じのふまにせ
 まてまていひの
 せいのぶま
 せいりう大正三石
 まんせちめとら
 えて今まへうま

ちつ日つ日のお日ハ天と日と月とのめぐりのおそ
 こまや紀より出るるわく日ハお日おつわり
 てほらふふ月とわつわり

ありん大まらちあやの三ヶ日ひんさうまらう
 ちあひの三あわ 神とてまはひのこんばんとほ
 よろづはらう 梨かへんば列て私事は

○いざんの事

ひんかとうつとま出家の用ふまはたさるる
 がさつりの天記はやまてんとそつてんとあひひ
 ちうやういんといふところまかひて二八月あひく七首
 のわひひまはひい ちんらう ちんらう
 ちあひまらう ちんらうのせんとあくとあひひと
 ちんらう
 ○まんげーちうはわわとつーまらうまらうと

食はるべし

○おとといやうきとめて地は外の日

○日ごとく八日のひより月のあまはあかりれさせあ

大ゆくりあり

○月ごとく八月のひより地のあまはあかりれさせあ

○よく神日のま

毎年八月十六日はやく神日中世にむらり九月

十日はやくのちやうのひびとあまはあかりれさせあ

ひとなび又人と日はあまはあかりれさせあ

○おとといやうきとめて地は外の日

十才 十三才 廿才 廿六才 三十才 三十八才

四十七才 四十七才 四十七才 五十五才 五十六才



んきこて女人あり

あせんせのこしやう

ひとなび又人と

ひとなび又人と

あべー

年のじのひか

よくあてい



ありあてい

あせんせのこしやう

ひとなび又人と

ひとなび又人と

あべー

年のじのひか

よくあてい

五十八才 五十九才 六十才 六十四才 七十才

○月お一日お

正月より二月より三月より四月より五月より六月より

七月より八月より九月より十月より十一月より十二月

○かどいでせぬ

このとのおう つちのへむま かのとのおり

○あまおひを日

三のへね ひのへね つちのへね

○万若田とて利せんぬ

ひのへね ひのへね かのへね

○かのとのおり

かのとのおり



ら七あぐせりおま
よくかえんありと
あどももきぬん
あへらうきくじ
るも程志あせは
未のじの人はせま
ことこつてい陽子
さわくとのきさう

○天ゆく日として天よりふくとせら日
正月廿三日也 六月廿七日 七月廿九日 十月廿一日
二月廿四日 六月廿八日 八月廿十日 十月廿二日
○地ふく日として井わりのあくとせら地柱とせら
至九月廿二日 十月廿三日 十一月廿四日 十二月廿五日
○三伏日
六月廿四日 七月廿五日 八月廿六日 九月廿七日
六月廿八日 七月廿九日 八月三十日 九月廿一日
七月廿二日 八月廿三日 九月廿四日 十月廿五日
○卯檀せつとせら日
正月廿二日 二月廿三日 三月廿四日 六月廿五日
七月廿六日 八月廿七日 九月廿八日 十月廿九日
十一月十日 十二月十一日
いよいよとせら解暑のはいやくとせらとせらとせら

せいより果きをせ
事とく念すうあど
うけえて今せへま
かえんせんそせもの
のあせを多くしり
今中てて子のえん
うばくたうまま
れものいのちとく
まゆ神依といのり
あひてせし
申のけり入る
てて白ての御ま
あくとせら

○むくび日
正月廿二日 二月廿三日 三月廿四日 六月廿五日 八月廿七日
九月廿八日 十月廿九日 十一月十日 十二月十一日
○ふたかうちのり
正月廿二日 二月廿三日 三月廿四日 六月廿五日 八月廿七日
九月廿八日 十月廿九日 十一月十日 十二月十一日
○ふたかうちのり
四月十日 八月十八日 十二月廿五日
八月廿五日 十二月廿九日
○三福九枚さうり
巳午未のじハ未 申為戌のじハ未
亥子丑のじハ未 寅卯辰のじハ未
○三つさふはさうり

より兼ておん金
 ぶつあてうけえて
 今もふれうぜ
 今もて人とあう
 今もふれうぜ
 今もて人とあう
 今もふれうぜ
 今もて人とあう



んと外ていふ
 どらふへも丸
 中ふちういへ
 あつてふんか
 うあふんか
 あふへたじ
 りてふんか
 あふへ

春はひび 夏はみき 秋はゆい 冬はさく
 ○月ふせかり
 五月九日 六月九日 七月九日 八月九日
 ○日ふせかり
 五月十日 六月十日 七月十日 八月十日 九月十日
 ○種伝
 五月十日 六月十日 七月十日 八月十日 九月十日
 ○日むしむ日
 春はむしむ 夏はむしむ 秋はむしむ 冬はむしむ
 ○ふつろむ日
 このね かのね かのね
 ○ふつろむ日
 このね かのね かのね

雲のしん
 ○金根とふか
 ○ふとむとめ
 五月七日 六月七日 七月七日 八月七日 九月七日
 ○商人か
 五月十日 六月十日 七月十日 八月十日 九月十日
 ○から
 五月十日 六月十日 七月十日 八月十日 九月十日
 ○あ
 五月十日 六月十日 七月十日 八月十日 九月十日



て今申すもれと
むすたじくお
うりえしめん
たききん
このむじや
人はまら
あし
成のしーの人の

ひのいぬ かのとうり ひのいぬのとうり

○せんのとねむる方 せんのとねむる方

ひのいぬ 二いぬ 三いぬ 四いぬ 五いぬ 六いぬ 七いぬ 八いぬ 九いぬ 十いぬ 十一いぬ 十二いぬ 十三いぬ 十四いぬ 十五いぬ 十六いぬ 十七いぬ 十八いぬ 十九いぬ 二十いぬ 二十一いぬ 二十二いぬ 二十三いぬ 二十四いぬ 二十五いぬ 二十六いぬ 二十七いぬ 二十八いぬ 二十九いぬ 三十いぬ 三十一いぬ 三十二いぬ 三十三いぬ 三十四いぬ 三十五いぬ 三十六いぬ 三十七いぬ 三十八いぬ 三十九いぬ 四十いぬ 四十一いぬ 四十二いぬ 四十三いぬ 四十四いぬ 四十五いぬ 四十六いぬ 四十七いぬ 四十八いぬ 四十九いぬ 五十いぬ 五十一いぬ 五十二いぬ 五十三いぬ 五十四いぬ 五十五いぬ 五十六いぬ 五十七いぬ 五十八いぬ 五十九いぬ 六十いぬ 六十一いぬ 六十二いぬ 六十三いぬ 六十四いぬ 六十五いぬ 六十六いぬ 六十七いぬ 六十八いぬ 六十九いぬ 七十いぬ 七十一いぬ 七十二いぬ 七十三いぬ 七十四いぬ 七十五いぬ 七十六いぬ 七十七いぬ 七十八いぬ 七十九いぬ 八十いぬ 八十一いぬ 八十二いぬ 八十三いぬ 八十四いぬ 八十五いぬ 八十六いぬ 八十七いぬ 八十八いぬ 八十九いぬ 九十いぬ 九十一いぬ 九十二いぬ 九十三いぬ 九十四いぬ 九十五いぬ 九十六いぬ 九十七いぬ 九十八いぬ 九十九いぬ 百いぬ

○かまじぬるを

この(ねむ)ちのいぬ この(ねむ)ちのいぬ その(ねむ)ちのいぬ その(ねむ)ちのいぬ

○井わりふ吉日

まのいぬ まのいぬ 秋 秋 冬 冬

のちねむる(ねむ)ちのいぬ のちねむる(ねむ)ちのいぬ 井 井

ね ね と と まる まる ひ ひ の の まり まり ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん

かのとひ かのとひ ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん

○とん とん ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん



て今申すもれと
むすたじくお
うりえしめん
たききん
このむじや
人はまら
あし
成のしーの人の

ひのいぬ かのとうり ひのいぬのとうり

○せんのとねむる方 せんのとねむる方

ひのいぬ 二いぬ 三いぬ 四いぬ 五いぬ 六いぬ 七いぬ 八いぬ 九いぬ 十いぬ 十一いぬ 十二いぬ 十三いぬ 十四いぬ 十五いぬ 十六いぬ 十七いぬ 十八いぬ 十九いぬ 二十いぬ 二十一いぬ 二十二いぬ 二十三いぬ 二十四いぬ 二十五いぬ 二十六いぬ 二十七いぬ 二十八いぬ 二十九いぬ 三十いぬ 三十一いぬ 三十二いぬ 三十三いぬ 三十四いぬ 三十五いぬ 三十六いぬ 三十七いぬ 三十八いぬ 三十九いぬ 四十いぬ 四十一いぬ 四十二いぬ 四十三いぬ 四十四いぬ 四十五いぬ 四十六いぬ 四十七いぬ 四十八いぬ 四十九いぬ 五十いぬ 五十一いぬ 五十二いぬ 五十三いぬ 五十四いぬ 五十五いぬ 五十六いぬ 五十七いぬ 五十八いぬ 五十九いぬ 六十いぬ 六十一いぬ 六十二いぬ 六十三いぬ 六十四いぬ 六十五いぬ 六十六いぬ 六十七いぬ 六十八いぬ 六十九いぬ 七十いぬ 七十一いぬ 七十二いぬ 七十三いぬ 七十四いぬ 七十五いぬ 七十六いぬ 七十七いぬ 七十八いぬ 七十九いぬ 八十いぬ 八十一いぬ 八十二いぬ 八十三いぬ 八十四いぬ 八十五いぬ 八十六いぬ 八十七いぬ 八十八いぬ 八十九いぬ 九十いぬ 九十一いぬ 九十二いぬ 九十三いぬ 九十四いぬ 九十五いぬ 九十六いぬ 九十七いぬ 九十八いぬ 九十九いぬ 百いぬ

○かまじぬるを

この(ねむ)ちのいぬ この(ねむ)ちのいぬ その(ねむ)ちのいぬ その(ねむ)ちのいぬ

○井わりふ吉日

まのいぬ まのいぬ 秋 秋 冬 冬

のちねむる(ねむ)ちのいぬ のちねむる(ねむ)ちのいぬ 井 井

ね ね と と まる まる ひ ひ の の まり まり ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん

かのとひ かのとひ ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん

○とん とん ち ち の の い い ん ん ち ち の の い い ん ん

てさいわいあり三十八までつじむべーは十八九まで火事のかをさわり
はに福さるるみ十六までやまひわりのちひ七十六十月午未の日死
後にはまごう辨さまつとふんがまつちまうちまうちまうと縁入ドお
ひせんごんをのりなるとせはり末めさるるべー



このとのはまごう人かうをさるるのちやほて下のかふ
じふくトムありていのち甚な下たんさつわ宛と
さいひんえおひてはこちかーじ人なわひんえんをさし
わじはかりてはさるるまつのうまれはふくあり父
母のぞくぶんと治次おのちまごひ神伝まつ
こりーあさふおのうまごひんかり目のあまぐち
き斗ありせんかうハおちこのくふくびさ都の
じりてありーがひつあうの風さびつのもへかけきやうをつけてお
まーあへ人とせとせりせいせいかうあまごうまごうとくくこせご

ねがひおさししくいとかきとせけいせいおさしは念よるるべー
ひ人の六七さいまでやまひわり八九さいまで大おつじむ七十三日
ておのふたうせうかうあやはあやてあるべー十はみままで
巧女をつーむべー十八九まで男女まつきくせうを廿二まで大
年あり廿はみうく女難う又若人の年まつきくせうを廿二とつ
ーむべー二十七までくせのありたを狭くりがかつてたう
はる三十二までやまひありの三十三はよてさるーはくせくせ
かこりうく川を流しむべーは十三までがー福さるるみ十一まで
さるるをさむむと有べー五十三まで大ふく若のいのちハ七十三
又ハ八十の十月さのとの日は死さだにむじをは極くねたか
をさむくむうさうさくさくあかやあさしくあふかあふか
よーてそのつれをべー

ひののとーはゆまう人かあつさしてさるるのさるるい人かさ

こんどやう後世あらくつて下りてくることはいひんありともは
よるかどしくさるるまの三人又ハ七人あはれとてはけと一まき
人いれやの記またたふとあべーよりくくくくをづくてはし
七八さいまでやまひあり十はみそとせのあり十七八まで男女
つきりつひあり廿八九までいへと習てありきつはやまひあ
るべー三十一より三十三までふくさるる三十には目を病とあ
三十七八までかぜのやまひをみ十二まで火とありいのちハ七八
月さのとのおの日死まべーはねまこさんとんまうけんをいの
てむたがうらばまへさん下やうあべー

つちへのはまうまう人ハ十方よりたうをねべー人はたつとま
まにんまいせもせいのせの人のいやりめらまはていふ
てけうくくして子み人りくハ七人と一たけてのまハ女
かりてんまうまえんまうじちうまありといふしはひまの



をかり小女子とあつておせんせいおまことのふかどく
ぶんどのありまで色とさまかえとこひお
とるおま人まうまれよりいらいせいでんやうま
べー日のあくる日米三斗ありまののうまれハ大
ふくありつひはちうあまはまはまらびあつのせれを
いのちかじ身いひんあつとこのもわりむま色まき
のうま色はいのちかか大福ありまのせまはたん

さハ六女までやまひあり十三まで大まはさひひあはやまもあへう
あんやうのせいのあり十七八までくせのあり廿二三まで二はまうと
つどひあり廿はあまはさいはつとせつあり廿八をさてもた
かあハ三十三まであべーは二十めまでちまうまハ三十七までま
ひあり又いへと出るこありは十までふくさるるに十二までくせつ
ありハ十一まで大福とさるるハ三十六までやまひありいのちハ

八十二八月とつての日の日まのこくまかりては縁ぐた
まどまつり大目とと縁ぐたさんぐどうてのまどまつり
具はよるいとあこをかりてせんじかうまへ



つちのとのじはうまやう人かうへむあつちうて
小むふう一むちまていつまりをいまふてありて
いのちかじまづ一まう人まものさか一まげせんを
らういある人のまぢあぶ一たんのさいわうとえる
ふじさうさとにわふくありとじまもかひてひん
まあてまひろまろけはげまか一ありてもまを
わじふくおまが子か一ひんおれが三人より九人
あま一せんせがあつちうのふまてやまのじまてこくあんど
まんやぶやぶとあひてのわりするゆゑ人ふかうまるそのとま
のまじはかとのまじりたのたまかちありらいせよてはてんふ

名とちがまへ一春のうま色はかくあり日のまよくまめみ味
わり夜のうまれむごやうあり日のまよくままき斗秋のうまれ
かよ一たじよんさ目のおよく田米六斗たごさいまうはた
ハハ一冬のうちまれはかうまよくえんあり日のまよくまめ三
斗ありは縁まものいこしては三斗まままひあり七ハさいよて
まづまひあり十三よてかみのたりあり十八よていへまじつと
あり廿一よて大よくありちまづてんまよくえんあまへ一斗
まよて男男女女つらまじつひありのじまもまよつまは廿八ま
いへ出るまあまへ一うまかまよてまいかんあまへ一三十はみそ
こうろんとお一あやうまことありまあさと宛へぬとまむま
あまへ一は十はまてくせうまは一むへ一は十七ハまてさいわう
まえんあまへ一廿一よて大まより一五十三よてはんまよくつまてま
ろくとありまがんとといのりてま一六十三よてまふいをまは

のちの八十三のまゝの(10)のこの日はたりのべーがなうわさつや
ーふふふふと綿んとてはび人二代のうち竹のつをほくこ
とSinger



かのこのとーはゆるー人(1)のちつうまひのこいよま
んありうらふゆうよーて下合ふ(1)たんま
こがくめんよむざーありきいゆう身まつ(1)人の
ひんを身よかへるまひーんありふくあま(1)たん
めいであうあまにせんわりそのうま(1)ひん
あつのうま(1)れはまのあわりあま(1)のうま(1)
いふう(1)ぶつ(1)ん(1)はう(1)う(1)のこ(1)あ(1)ま(1)の
りてよーふゆのうま(1)れ(1)わ(1)は(1)ま(1)あり(1)て(1)よーま(1)る(1)あ(1)つ(1)の(1)う(1)ま
ま(1)日(1)の(1)あ(1)ま(1)く(1)茶(1)三(1)斗(1)あり(1)あ(1)ま(1)ふ(1)ゆ(1)の(1)う(1)ま(1)ま(1)日(1)の(1)あ(1)ま(1)く
大(1)豆(1)三(1)斗(1)あり(1)ぜん(1)ぜ(1)は(1)ま(1)る(1)が(1)の(1)ふ(1)ふ(1)ト(1)川(1)の(1)い(1)し(1)や(1)あり(1)ら(1)ら

せうてい夫人とうまふべーそのと宛のあま(1)か(1)の(1)う(1)ま(1)か(1)と(1)あり(1)
は(1)ひ(1)ま(1)ら(1)ん(1)ご(1)つ(1)天(1)王(1)を(1)あ(1)り(1)に(1)ん(1)ら(1)う(1)と(1)ま(1)ま(1)又(1)と(1)ト(1)の
せ(1)ら(1)い(1)せ(1)い(1)よ(1)ま(1)ま(1)の(1)う(1)ま(1)る(1)べー(1)と(1)の(1)ま(1)ま(1)げ(1)あり(1)て(1)い(1)わ(1)う(1)た
く(1)ま(1)ま(1)じ(1)の(1)人(1)う(1)ま(1)れ(1)て(1)百(1)日(1)の(1)う(1)ま(1)か(1)さ(1)の(1)や(1)ま(1)ひ(1)り(1)三(1)斗(1)と(1)あ
ま(1)ま(1)と(1)あ(1)ま(1)七(1)斗(1)と(1)ま(1)と(1)や(1)む(1)十(1)六(1)斗(1)と(1)ま(1)ん(1)ぞ(1)う(1)つ(1)ま(1)て
つ(1)ー(1)あり(1)又(1)田(1)女(1)ま(1)つ(1)ま(1)て(1)ゆ(1)へ(1)ま(1)は(1)あ(1)ま(1)い(1)て(1)火(1)斗(1)の(1)あ(1)ま(1)れ(1)あ
ま(1)ま(1)く(1)ぜ(1)つ(1)あり(1)て(1)な(1)ま(1)ま(1)あ(1)ま(1)て(1)も(1)あ(1)ま(1)三(1)斗(1)と(1)や(1)ま(1)ひ(1)あ
ま(1)ち(1)り(1)ひ(1)事(1)あ(1)ま(1)べー(1)は(1)十(1)三(1)と(1)て(1)大(1)ま(1)ふ(1)ま(1)は(1)十(1)七(1)と(1)て(1)火(1)斗(1)あ
く(1)ぜ(1)つ(1)あり(1)て(1)な(1)ま(1)ま(1)あ(1)ま(1)て(1)も(1)あ(1)ま(1)べー(1)は(1)十(1)九(1)と(1)て(1)な(1)ま(1)ま(1)を
ま(1)あ(1)ま(1)十(1)一(1)と(1)て(1)じ(1)の(1)や(1)ま(1)ひ(1)と(1)ま(1)つ(1)ふ(1)事(1)あ(1)ま(1)べー(1)の(1)ち(1)七(1)斗(1)と(1)あ
八(1)十(1)三(1)と(1)て(1)死(1)に(1)ま(1)月(1)か(1)へ(1)う(1)の(1)日(1)あ(1)ま(1)べー(1)は(1)ひ(1)ま(1)ら(1)ん(1)わ(1)ま(1)
い(1)ま(1)ま(1)つ(1)つ(1)て(1)よー

かのこのとーはゆるー人(1)のちつうまひのこいよま



あいえんわりのいぢくまんぞくおべーと人の子とてわちひは
は孫コぢうあまはつさきつていごことわりのふはさ
さいまどび人のうさよりものせげろまうぢいこ
日えんわりの子三人りくひ十一人あべーとるあつの
うままはひんごつとんごまへてはむわさふおの
ままはふくありま公神とまつべーとるあつの
まね日のあうこ三斗ありあまふおのうままは日の
あうくろごめみまありせんせむさーのふお
さくこでものいごち之と娘のあうま右のちのふふあ
ありあやまうおべー女はうりく之あうれども婦人のかうと
あふべー三斗までりこのたりあり七八斗までちうせうわり十三
まであやうれとあり十九二十までせうとんのたりありあて
くせつあり三十めまだてたくまへて三十は十二までさいめん

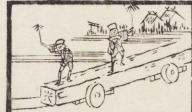
せつありふ十六そとくのわーりありのちの八十三又の九十三九
月さあねひのねの日ま死後べーくまんかんふくトもままり
あぢぢまのむむぢやつそくはいはまとなりたさふまべーては



まろのむじまうあう人いそこーちうありてむ
あつちありそるわさのせまの太まーあつふあ
のうまれのひんかり子め人か九人ありそのう
ち女のころ之出あ家まろ子もあべー日のを
米ま斗ありせんせむさのふのあういぬ
まてありそのまれのあうまのたのまか
ろありらいせのあむまろまろつ縁まむりあ
くたーあままりまぶげまうまべー三斗まであせ
とあり十三まであゆひあり又うく川つじむべー井はあま
太まさいめんあり廿九まで編さるる三十四までくせつうま

火にさしあへりあつたといふとあふへり二十七八年とねま
 入ふあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 三のちよあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 八まんときんてま

十七



まつどのとまへてあふへりあつたといふとあふへり
 みあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 わりいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 八まんときんてま

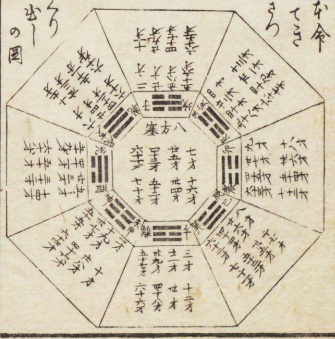
わりのひよとて大神宮の内本をひよあへりあつたといふとあふへり
 ぢちちちあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 八まんときんてま

○お命の殺の事

夫か命の殺の八卦八方といふはもものして一の凶無神
 事ありまかあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿七十八年とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 廿九一とねまあふいひきりんとあふへり二十七八年とねま
 八まんときんてま

此書に死なう 腹巻
 廣刑の徳とせし
 その書いのるよとこ
 ろのいよもなる所
 のり出ーハねんぬ
 い林んころをハや
 見うち中央よある
 けとそかひちハ
 ふさぐりーハ
 いはとある人々
 万のほーと
 おひあめーや
 へい

命
 へ
 へ
 へ



出
 の
 図



○四孝皇帝の古

孝のていのかーらああるうまれ
 けふうそえ人々ちうき友位ま
 せむ徳人まやまらて人
 らとせよーぬまーまんまーわり
 りつちうぢびやうをーいのちあが
 く女いよつてまかつてはあんを
 へ心まつらうてまんやうはじらう
 つさいあんだのさうんつはまうあ
 らまうさうたへくらわかしこ
 りるかどああせーこうさく
 まえんあうてさうそのかまわ



十一

くつべーなしあんけんとい
のちんごはば大人さんんひき
してりてかまひさるあおせまじ
くつべーといのちんあさうまれ
まうつはいくげいのうありもの
さうへうさう女いてまうさうま
くあり人はあひまかうありたえ
まうまのせてよーいりてこの
ひんせありつーむべーはま
びいわうありまうとーまわ
えいごあり
まうていのちんあさうま
まうさうまさんありあんぶま

アーあるひあへとまうていひまひおぐは名とまうてその
かう法けいさうてあさうまの人たアーつにおお
ひしたくびあまのてまうてまうてあべーかしてま
りてよー

まうていのちんあさうまのつらまうていひんて
たアーむさうまうまうまうまうまうまうまうま
ごうまれりまうまうまうまうまうまうまうま
てあべー男ハ女のまうりちんまうまうまうま
まうまうまうまうまうまうまうまうまうま
女いさん大人のはむしあべー子さんまうま
はまうまうまうまうまうまうまうまうま
つありまうまうまうまうまうまうまうま
まうていのちんあさうまのつらまうていひんて

えん平一目くまあつこあつこるろしちんらうあ
 ころきとたより仲年とさきまてむかありひふよとる
 やうあつててもさのまじりまろていひくありてま
 一し年よりてあありせよけ人のかやまふうか
 ぶ一又くくもてもあやのさまあぬてあうぢ
 けひのさちもちいせつなほ〜〜〜とつじ
 ていら〜とえい〜あ
 ちん〜のわーとあつらうらひいあやのさ(まのさかじ)
 ころ〜(あ)てあありせよ〜とくけり〜たあ
 とくけまりてくら〜かやまあれてのち
 あん〜あ〜き〜づ〜い〜さいえんか
 ば〜んかもま〜なび〜えんら〜ば〜とく
 ちん〜てあありせよ〜ば〜

○なほのひのさき

本丸〜
 大正の年世
 大正の年世
 あつ〜
 みま〜
 ○あつ〜
 子あ〜
 ころ〜
 う〜
 し〜
 年せ〜
 ころ〜
 ころ〜
 らぬ〜

六十圖



その
あ〜

○あんなあゝあゝせんわのま



○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき
 ○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき
 ○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき



○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき
 ○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき
 ○男木女木を人の内へ入居ははてめがちあはれやうと
 ちり今もあはれ但あまのううりまはつて
 いうへへあはれあまのむらさき
 かりまゝあまのむらさき



○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく



○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく
 ○男が女あをまじひにむねをいひたりてあはれ
 とわかれなむまにまふこめ一人をう
 げしはくはくはくはくはくはくはく
 じやいひひくはくはくはくはくはく



○男全女全大にまふん九人のうちくくちうじて
 天と志のまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま
 りりあれまゝいんさう

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 他いんあれまゝいんさう

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま



○男水女全大にまふん七人入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま



○男全女全世にまふん入つたけきじふえんあり
 ちんさうふたのしちんま

書林

美濃屋伊六
 萬屋東平

愛 知 県



1104082072

148

サ